名古屋名駅ロータリークラブ

2019-20 年度

WEEKLY REPORT

Rotary Club of Nagoya Meieki

クラブ会長方針「つながり、広がる奉仕の絆」

スローガン「明るく楽しく和気藹々と」

名古屋名駅ロータリークラブ
承　認：1991 年 4 月 17 日
例会日：水曜日　12：30～
例会場：名鉄ニューグランドホテル

会　　長：西川達郎
副 会 長：川田武司
幹　　事：早川敏江
クラブ会報：石川正裕

国際ロータリーのテーマ
ロータリーは世界をつなぐ

2019-20 年度 R.I. 会長
マーク・ダニエル・マローニー

●名古屋名駅ロータリークラブ 事務局：TEL.052-453-0808　FAX.052-453-0800　E-mail：meiekirc@f5.dion.ne.jp　http://www.nagoya-meiekirc.com

休会特別版　第４弾

コロナ禍の中ですが、ポリオ撲滅になお一層のご協力を。

2020年５月27日㈬
（令和２年）

会長あいさつ

西川達郎会長

とうとう今年度最終月の６月を迎えようとしています。例会開催可能な日も残り少なになりました。

さて、川田副会長も前号でお書きになってみえましたが、私も同じ様に家内と殆ど毎日３食一緒に過ごしています。結婚して約40年、全く初めての経験です。何しろいわゆる職住一致の生活ですので、ゆっくり話ができたことはよしとすべきでしょうか。近くに居る孫達の顔もここ２ヶ月半見ていません。飲酒量も以前の３分の１以下で、飲まない日もあります。皆さんと賑やかに飲めないので飲み過ぎるリスクはありませんが、反対に色々なお話が聞ける貴重な機会がなくなるリスクもあるのではと思っています。

ただ今回の自粛生活の中で見つけたささやかな楽しみは、若い頃に購入した古いＬＰのレコードを引っ張り出して久しぶりに聴いたことです。やはりＣＤとは違った味わいがあります。

話が変わりますが、このコロナ騒動のもとで、しばしば目や耳にしたりするようになった言葉が多いですね。「不要不急」、「三密」、「テレワーク（リモートワーク）」、「ステイホーム」、「ソーシャル ディスタンス（ディスタンシング）」、「正しく知り 正しく怖れる」（ご記憶にないかもしれませんが、これは2009年の新型インフルエンザ流行の際にも使われました）、「アベノマスク」（毎日郵便受けを見ていますが、この文を書いている時点ではまだ届いていません）など。

しかし残念なのは、いわゆる「自粛警察」と呼ばれるものです。自分や自分の身近な人が直接不利益を受けたわけではなく、当事者と関係があるわけではないのに、自分は絶対正しいとして、知りもしない相手に非常に攻撃的な言葉を浴びせ、完膚なきまでに叩きのめさずにはいられなくなってしまうというものです。これは、「許せない」という感情が暴走してしまっている状態で、これを脳科学者の中野信子氏は、著書の中で、正義に溺れてしまった中毒状態、いわば「正義中毒」と適切な言葉で命名しています。未知の恐怖から来るもので誰にでも陥りやすいそうですが、ロータリアンにとっては遠い世界のできごとで、嘆かわしいし許されない行為です。まさにロータリーの「四つのテスト」を知らしめたいですね。

今回は鈴木 歩さん、安藤 慎さんの新会員卓話も掲載されています。緊急事態宣言も解除になり、せめて締めくくりに例会を開催できればと思っています。皆さん、宜しくお願いいたします。

□幹事報告

早川敏江幹事

⑴第９回持回り理事会の報告（5月15日開催）

①次年度会費徴収と例会取消による例会食費未消化金に関する件

３月からの例会取消により例会食費等未消化金が発生しています。こちらは今期決算で金額を明確にした上で、次年度への繰越金として計上し、その取扱いは次年度理事会にて決定、報告をすることで承認可決しました。この件は、次期会費請求時、各会員皆様へ文書通知させて頂きます。また次期上期会費は、細則に則り、これまでと同様にご案内させて頂きます。

②「かけこみ女性センターあいち」イベント中止による費用負担について

４月26日開催予定の市内25ＲＣ社会奉仕委員会当クラブ提案事業は、新型コロナの影響で中止となりました。昨年からイベント開催の準備を進めており、発生した費用についてはクラブが負担し、社会奉仕委員会費から拠出することとなりました。

⑵第10回持回り理事会の審議内容報告（5月22日開催）

①６月例会について

例会再開に際し、当クラブ医療従事者皆様のご意

見を基に審議しました結果、例会開催には、会場設営ならびに運営、開催時間短縮他、これまでの例会どおりの開催は避けるべきとの見解にいたりました。また、当クラブのホームクラブ例会場（名鉄ニューグランドホテル）は、6月16日から営業再開されることもあり、6月３日の例会は取消。10日は当初予定どおり休会（取消）。17日からの例会再開に向け現在検討を進めております。例会再開につきましては、あらためてご連絡をさせて頂きますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

□新型コロナウイルス感染症がポリオ撲滅の妨げに
Ｒ財団・米山記念奨学会委員会　　髙田統夫委員長

日本における新型コロナウイルス感染症（ＣＯＶＩＤ－19）問題はようやく光が見え始めたところですが、世界的にはまだまだ収束の兆しが見えません。このＣＯＶＩＤ－19は我々の生活に様々な影響を与えていますが、特に外出規制などによる子供たちの予防接種の遅れが日本だけでなく世界的な問題となっています。

いまだにポリオが撲滅できていないアフガニスタンやパキスタンでもＣＯＶＩＤ－19の拡大が見られ、アフガニスタンでは約５千人、パキスタンでは約３万５千人の感染者が報告されています。このような状況ではポリオの予防接種も困難となっており、ＷＨＯの責任者も「予防接種活動がＣＯＶＩＤ－19感染拡大につながってはならない」と勧告せざるを得ない状況です。全世界的には４月だけで４千万人もの子供たちがポリオワクチンの接種機会を失ったと推計されています。

ＷＨＯやＣＤＣなどと連携してＲＩが注力しているポリオ撲滅プログラムに、ＣＯＶＩＤ－19が今後影響していくことは避けられず、予防接種のスケジュールの遅れやコストの上昇が予想されます。

皆様におかれましては、ロータリークラブの奉仕活動の重要な柱の1つ、ポリオ撲滅に今一度思いを致して頂くとともに、経済情勢の厳しい折恐縮ではありますが、ポリオプラスへのご寄付などを通してなお一層のご支援を宜しくお願い申し上げます。

★ ポリオプラス寄付のお願い ★

当クラブでは今年度1人当たり30ドル、計2,490ドルのポリオプラスへの寄付を目標に掲げておりますが、4月末現在で1,802ドル（1人当たり21ドル余）となっており目標未達です。目標まであと約700ドル、是非ともご協力をお願いいたします。

ご協力頂ける方は下記口座にお振込の上、メールかファックスで事務局にご一報下さい。事務処理の都合上、6月中旬までにご寄付頂ければ幸いです。

◇振込口座
三菱ＵＦＪ銀行　名古屋駅前支店
（普）1161869
※６月のロータリーレートは事務局にご確認下さい。

新会員卓話

「自己紹介」
鈴木　歩さん

ロータリークラブが休会となり、もう３ヶ月になります。こういった状況の中、「Weekly Report 特別版」の中で「新会員卓話」を発表することになりました。仕事の都合で欠席することも多く、なかなか皆様とお話もさせて頂いておりませんので、今回は自己紹介をさせて頂きます。

○1967年４月17日生まれ 53歳……昨年の誕生日に名駅ＲＣに入会。すごく縁を感じております。

○愛知県高浜市出身……今も実家があり、母が暮らしています。３人兄弟の次男。高浜市は愛知県の方でもご存知ない方が多いと存じます。刈谷市の南側に位置し、かつては三州瓦の製造が盛んな土地でした。最盛期には全国の40％程を生産していました。

○1986年 東海高校卒業……名古屋で東海卒と申し上げると、よくＡ群ですか？ Ｂ群ですか？と聞かれますが、バリバリの「Ｂ群」です！ 野球が大好きで幼稚園の頃から野球を一生懸命にやっており、東京六大学（早慶戦）で野球をやることが目標でしたので、高校時代も野球第一、部活第一の生活を送っておりました。ただ、高校ではもはや学業も含め夢となりつつありました。

○1988年 早稲田大学商学部入学……一浪して何とか志望校に入学。安部球場（当時）に野球部の練習を見に行きましたが、実力のすごさを目のあたりにし、とても無理だと思いました。結局、高校の野球部の先輩に誘われ野球サークルに入りましたが、六大学（早慶戦）への憧れは依然強く、神宮球場によく応援に行き、ＮＨＫの連続テレビ小説「エール」でも描かれた「紺碧の空」を歌っていました。

○1991年 アサヒビール株式会社入社……入社後、当時の名古屋支社で５年間、営業担当として勤務。

○1996年 本社マーケティング部……皆様にスーパードライをご愛飲頂き、1998年、弊社は45年ぶりにビールカテゴリーＮＯ.１を奪還しました。あの時の感動は今でも忘れられません。

○2001年 本社宣伝部……2006年の野球の第１回「ワールド・ベースボール・クラシック」や2005年の「愛・地球博（愛知万博）」も担当しました。

○2009年９月 本社宣伝部長……2014年には東京オリンピック・パラリンピックの権利獲得交渉、契約交渉も担当し、酒類メーカーで唯一のゴールドパートナー契約を締結させて頂きました。オリンピックは基本１業種１社の契約ですので、契約を締結させて頂くまでは緊張の日々を過ごしました。

○2019年４月 東海統括支社長……23年ぶりに名古屋に戻り、故郷で日々奮闘しております。

以上のように、これまでの会社での職歴としては、本社の宣伝部に一番長い約18年間在籍をし、前述の東京オリンピック・パラリンピックの交渉をはじめ、数多くの貴重な経験をさせて頂きました。

宣伝というと派手な仕事と思われるかもしれませんが、決してそうではなく、担当の時も、宣伝部長を拝命してからも、いつも「凡事徹底」を大切にして仕事をしてきました。会社の中で大きな費用を使用する部門として、あたりまえのこと、自分たちがすべきことを非凡なレベルまでやり抜かなければ、説明責任が果たせない、いい成果はあげられない、信頼されない、と思いながら務めているうちに、あっという間に18年が過ぎてしまいました。

また、いつも感じ、感謝をしていたことは、「お取引先様の皆様に多大なお力添えを頂き、こういった仕事、経験をさせて頂けるのは、アサヒビールに勤めているからだ」ということです。名古屋に戻って来てからもそうです。ロータリークラブも、私個人では入会することはできず、アサヒビールに勤めているから入会をさせて頂き、皆様と出会うことができました。そのことにあらためて感謝をし、例会再開後の皆様との時間を大切にしていきたいと思うこの頃です。まだまだ安心はできませんが、早く皆様とお会いできるのを心待ちにし、引き続き気を引き締めて行動をしてまいりたいと思います。皆様もくれぐれもご自愛下さい。

「網走の日々」

安藤　愼さん

私にとって、社会人生活を通して忘れがたいインパクトがあった日々について、少しご紹介いたしたく思います。昭和56年の話です。

名古屋鉄道では入社後すぐに、グループ子会社への数年間の出向制度がありました。遠隔地の覚悟はあったにせよ、できれば24時間勤務のホテル旅館は避けたかった希望もかなわず、しかも一番避けたかった網走の勤務となりました。当時は名古屋から網走への直行便はなく、札幌まで飛び、そこから東亜国内航空のプロペラ機に乗って1時間で女満別空港に降り立ちました。4月の名古屋は桜の時期でしたが、当地に着くと吹雪でした。見渡す限りの白い原野の中、ひとり、身も心も凍りつきました。

着任先の網走のホテルは、90室350人収容。仕事はフロント係。と言っても、案内・宴会設営・配膳・売店係・布団敷き・洗い場・客室掃除・キャッシャー・予約・電話交換と、お客様の動きに合わせた全ての業務です。宿直はほぼ1日おきと言えども、泊まり明け非番があるわけもなく、そのまま夜中まで勤務し、翌早朝からそのまま宿直という繰り返しでした。休日は月に1日あるかという程度。事務所裏の小屋の一室二畳の部屋で寝泊まりするのですが、一切日が当たらないうえ、火の始末が危ないからと冬も電気毛布だけの生活でした。真冬は非常に寒く、毛布で体は暖かくても顔が寒くて眠れません。吹雪の際は窓の隙間から入った雪が枕に積もって溶けていないので、それを手で払って布団に滑り込んだものでした。よほどホテル宿直のほうが暖かでした。

真冬にはホテル玄関の寒暖計の最低温が－28度になりました。さすがに息苦しく、これくらいの気温になると辺り一面きらきらとダイヤモンドダストが見られます。濡れた髪は瞬間でバリバリになりますし、車のドアノブは素手で触れてはいけません。瓶飲料は破裂しますので、食材は冷蔵庫で保管します。冬スポーツのスキーは現地の人はあまりしません。風を切るのがあまりに寒いので、スキーよりスケートです。何せ広場に水をまいた瞬間にリンクができるのですから。道路はどこもアイスバーンです。当時は四輪スパイクとは言っても滑りながら走るイメージで、ワダチを外すと180度回転しました。

冬の網走観光はやはり流氷です。当時は1月下旬から3月中頃までオホーツク海がびっしりと氷におおわれていました。流氷の着岸時には、それまでの暗く沈んだ海から一変、そこに白い大地が広がっているさまは感動的でした。今よりも氷は厚く高く、流氷鳴りのキシキシという音が聞こえました。当時は直接海に出る砕氷船がなく、こわごわでしたが岸から流氷の上を歩き進んだものでした。流氷はシベリア・アムール川で凍った氷が流れ着いたもので、その迫力をご覧頂ければ、まさに"冬こそ北海道"だと感じられます。

もう1つの観光の目玉はやはり、網走といえば番外地、網走刑務所です。明治時代、重罪人をこの地に拘禁し、囚人を中央道路の開削工事の労働力として使役させ、蝦夷地の開拓にあたらせた歴史があります。戦後、映画人気により、網走刑務所は全国区の観光名所となりました。今は近くに「博物館網走監獄」として旧建造物を保存・公開していて中を見学できますが、当時は実際の刑務所門で守衛さんを前に写真を撮るぐらいでした。ホテルでは、出所祝いとして100人ほどの軽食的な宴会を受けることもあり、その際はホテル前にそれなりの高級車が整列し、館内も異様な雰囲気でした。

帰任近くに起きたのが、サハリン沖での大韓航空機撃墜事件でした。ソ連の戦闘機が領空侵犯した民間機を撃墜したという事件です。流れ着いた漂流物を目にし、知床羅臼の目前に広がる国後、根室納沙布沖の監視船とともに、国境近くの地であることを強く感じられずにはいられませんでした。

思い返してみるに、生活してみて、まるで異国の地であった網走。断片的なものになってきた当地での日々が、この機会を得て甦ってきました。

ニコボックス

○緊急事態宣言が解除され、皆様にお会いできる日を楽しみにしております。（早川敏江さん）

○お花を送っていただきまして、ありがとうございました。自粛生活に華やかさと和らぎが生まれ、花の力をあらためて実感いたしました。（山田晃也さん）